千葉県日独協会通信　No.31　－　2003年（平成15年）12月14日

Die Eiche

ディ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba
事務局　〒274-0822 船橋市飯山満町2-681 ワールドナーシングホーム内
Phone: 047-467-6111　Fax: 047-467-6123

第9回　慰霊祭

追悼の辞を述べるゲーペル武官

御霊の名を読み上げる石崎理事

当協会が設立される契機となった1995年の慰霊祭から数えると第9回目の今回は、平尾浩三会長のドイツ出張（ジーゲン大学と慶應大学の合同シンポジウム「黒沢明とその時代」を主催）の為、例年より一週間遅く11月30日（日）に習志野霊園にて行なわれた。

前日からの大雨は、当日の朝にも止む気配なく誰もが初めての雨中の慰霊祭を覚悟していたが、10時頃から小降りとなり、誠に幸いな事に慰霊祭の始まる11時には雨があがり、傘をささずに済んだ。

西阪知晃事務局長の司会で例年の通りの慰霊祭。但し、ドイツ大使館からは、ヴァルナー武官の後任に就任されたゲーペル武官、次いで平尾会長／船橋市長（代理として山田明環境課長）が追悼・慰霊の辞を述べられた。30人の御霊の名前は、この墓を父君に続いて守って来られた石崎満氏（当協会理事）により読み上げられた。7年前に植樹されたドイツ柏も船橋市役所関係者の皆さんのお蔭で6～7m迄大きくなり葉も多くなってきた。30名全員の献花が終り、集合写真を撮る12時近くになって、また雨がポツリポツリと降り出す。

直会は、レストランcoco'sに26名の参加を得て行なわれ船橋よみうりの加藤記者も同席。皆で自己紹介をし、懇談して2時に解散する頃には青空も見えていた。

尚、大使館及び船橋市役所より寄付を頂いた。

追悼の辞

ドイツ大使館武官
ヘルムート・ゲーペル陸軍大佐

昨年、私は前任者のヴァルナー大佐とともに、ここ習志野墓苑をはじめて訪れました。そのとき、皆様が、ここに埋葬されているドイツ兵士に示されたお気持ちに接し、大きな感銘を受けました。駐日ドイツ大使に代わりまして、皆様が、そして特に千葉県日独協会の皆様が、慰霊碑の維持のためお示しくださったご尽力に、感謝申し上げます。また今後のご支援とこの厳粛な慰霊祭の継続を心よりお願い致します。

私たちは一九一五年から一九一九年にかけてここで亡くなったドイツ人兵士三十名の慰霊碑の前にいます。彼らが命を落としたのは戦闘の中ではありませんでした。当時イギリスと同盟関係にあった大日本帝国の戦争捕虜として亡くなったのでした。皆様もご存知のように、彼らの大半は、西郷虎太郎収容所長と共に、一九一九年に収容所で流行したスペイン風邪の犠牲となりました。

皆様は例年の通りここに立ち、ドイツの国防武官と共に慰霊祭を行っています。皆様のような方々がおられるからこそ、日独両国は遠く離れていながら誠に近い存在です。ここに眠る人たちの魂が今いる所から、大きな感謝の気持ちを持って、私たちがここに集うのを眺めている事でしょう。

このようにして若くして亡くなった人たちを思う時、同情と深い悲しみがわいてきます。皆様のお身内の戦没者の方々、そして全世界の戦争による幾多の犠牲者にも思いを寄せましょう。

これら全ての人たちが、平和の尊さを教えてくれています。皆様、しばしのあいだ、共に黙祷を捧げましょう。

慰霊祭に参加の皆さん

～今後の主な催物案内～

➢ **新春講演会「2004年の国際情勢展望」**

講師：杏林大学客員教授・国際政治外交評論家
　　田久保忠衛氏（当協会副会長）
日時：1月25日（日）14:30～18:00
場所：喫茶室「サン」
　　JR総武線西千葉駅南口駅前1分
　　プラザホテル1F
電話：043-241-8051
会費：2,500円
申込：同封のハガキで1月20日まで
その他：講演終了後、田久保先生を囲んで懇談会。
　　千葉大に留学中のドイツ人女子学生も
　　参加予定です。

在日独留学生と小江戸・川越遠足

(財)日独協会主催、恒例の滞日独学生との遠足は、小雨降る11月3日に独留学生36名に当協会関係者7名を含む75名、計111名の参加を得て行なわれた。

西武新宿線本川越駅を10時に出発、江戸の風情を残す街並みを散策、「時の鐘」「菓子屋横丁」を見物。昼には創業明治元年の「初音屋」の大広間に集合、大和飛燕太鼓の演奏を鑑賞。

次いでオッペンバッハ市と20年来姉妹都市となっている川越市の船橋功一市長が歓迎の挨拶。そして昼食には名物の「せいろ膳」を賞味。

午後も喜多院、川越まつり館等をグループ毎に観光して16時すぎ流れ解散。

船橋市長（前列左から三人目）を囲んで

両武官歓送迎会挨拶（前号よりの続き）

ドイツ大使館国防武官海軍大佐
ライムント・ヴァルナー

平尾会長、花井常務理事、ご出席の皆様

日独協会、コール77、「横浜港ドイツ艦船爆発事件を語り継ぐ会」の皆様がこのように多数ご出席されましたことに、非常に驚いている一方で、感謝の気持ちでいっぱいです。私どもにこのような大きな喜びをお与え下さいまして、誠にありがたく思っております。

ユーモアを忘れず、いつもながらすばらしい平尾先生のスピーチのおかげで、心が重たくなることなく、この思い出に残る夕べの集まりに入ってゆくことができました。澤登様とコール77の皆様の見事な歌声を聴き、幸せな気持ちになりました。できたら私も皆様の中に混じって、一緒に歌いたい気分でした。しかしそんな事をしたら、皆様の歌声を台無しにしたかもしれません。

今宵の集まりの発起人のお一人である花井様から、川崎の稲毛神社　氏子総代の半纏という素晴らしい記念品を頂きましたことに、格別の御礼を申し上げたいと思います。日本にこのような良き友人たちがいることは、たいへん心強いかぎりです。

このような皆様のご好意にどうお答えしたらよいのでしょうか。私たちにもわかりませんが、それにも増して私たちの喜びは大きなものです。皆様とすばらしい夕べを過ごすことができましたことに、心より御礼を申し上げます。

皆様には今後ともご多幸をお祈り致します。皆様がドイツ兵士の魂と墓地のために続けてこられたことは、日独両国民友好への大きなご功績であるといえます。皆様のご支援にいつでもすべてを心置きなくお任せすることができました。ヘルムート・ゲーペル大佐が私の後任者になっても、それは変わらないと存じます。お別れの辛さはあるものの、私も安心して離任することができます。本日は誠にありがとうございました。

ドイツ大使館武官補佐官陸軍大佐
ヘルムート・ゲーペル

平尾先生、ご来場の皆様

本日、ご招待いただきましたことは、私と妻にとり、格別の栄誉でございます。昨年、私は習志野と横浜の慰霊祭に出席し、皆様が日頃のご活動の他に、ドイツ人兵士の墓を大切に守り、戦争に倒れた兵士の慰霊祭をおこなっておられる姿を、拝見いたしました。皆様には心よりお礼を申し上げます。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

妻と私は、これから3年にわたる任期の間に、さまざまな形で皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

ご支援のほどよろしくお願いいたします。

（在日ドイツ連邦共和国大使館提供）